

# 園だより あおいそら9月号

令和7年9月1日（月）熊本大学教育学部附属幼稚園



## 園長のコラム

実りの多い2学期にしましょう  
よろしく申し上げます



保護者の皆様、8月11日の大雨におきましては、ご家族の皆様、大変な思いをされたのではないかと心配しておりました。心より、お見舞い申し上げます。

本日、2学期をスタートすることができました。子ども達の元気な姿を見ることができまして安心しました。夏休みはいかがお過ごしでしたか。お子さん達も、夏休みならではの経験ができたのではないのでしょうか。ゆっくり、お話を聞かせていただきたいと思います。夏休みのこと、少しお話しします。私は7月の終わりに全国幼稚園研究大会 滋賀大会に出席しました。国公立幼稚園、認定こども園、私立幼稚園の先生方の研修会でした。私は、附属幼稚園でしか保育の経験がありません。私立の幼稚園の先生方の話をとても新鮮な気持ちで聞いていました。そこでいろいろなお話を聞いて思ったことは、子ども達の本質のところは、決して変わることはありません。しかし、何か、うちの子ども達と違うと思うのです。いろいろ話をして、その会の助言者となっていたいただいた愛知学芸大学教授の津金美智子先生が「子ども達は、育つ物的環境、人的環境→保育の内容で変わるのです。」と言われました。そのために、子ども達が主体的に遊びにかかわれるように、人と関わり「伝えたい思い」を表せるように、日々保育を考えていきます。幼稚園にも様々な、保育があります。それぞれにいいところがあるのです。私たち熊大附属幼稚園では、目に見える形ではないけれど、ここでの学びは先々に必ずつながっていくような質の高い保育を提供してきたいと思っています

2学期も、子ども達はたくさん遊び、経験して大きく成長をしていきます。様々な楽しい遊びが展開されるのが楽しみです。子ども達の健やかな成長のために、保護者の皆様のご協力をいただき、職員一同元気に頑張っていきます。どうぞ、よろしく申し上げます。

## 架け橋プログラム

今、文科省が出している、学びの連続性としての「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもにかかわる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものとして示されています。

本園でも、附属小学校との連携を密にし、子ども達が安心して進学できるよう小学校の先生達とも連携を深めています。

## 110周年記念グッズ販売

110周年記念に向けて、記念グッズを販売します。詳しくは、別紙をお配ります。  
ご協力をお願いします。